

玄洋社関係史料の紹介

石瀧 豊美

第 8 回

福岡表警聞懐旧談 (三)

明治八年、武部小四郎が大阪で板垣退助に会い、帰後、矯志社、強忍社、堅志社が誕生する。そして、これが西南戦争当時の福岡洋社の結成へとつながっていく。「自由党史」では武部と越知彦四郎は愛国社結成に加わったことになっているが、会議の参加者のリストには武部、越知の名は見出されない。

明治丁丑

福岡表警聞懐旧談 上

清連野生編述

た場合は註記しなかった(例 壯志(七))。

第二回

武部小四郎、大坂会議に臨み、前参議板垣退介に面接して帰り、地方壯志の団結を奨励す。

これより先、戊辰戦争から凱旋した福岡士族の中に就義隊と併心隊とが生まれ、両者の反目は箱田六輔、宮川太一郎らの投獄へと至る。しかし、その後、両者は和解し、この人脈から福岡士族の青年指導者たちが育ってくる。彼らは廃藩置県後、人參畑塾に高場乱の門をたくことになる。

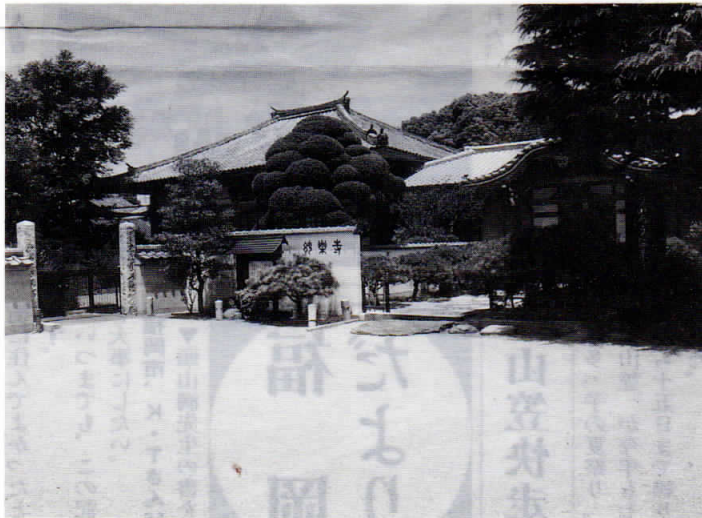
偕て、翌明治八年の春、板垣前参議は首として関西諸州大坂の会同を募集す。その際、武部小四郎は恰も山路より帰り来りて、尚久内国一和して以て対外宣武の宿意を貫徹せんと算計せしことなれば、夫の報を耳にし、即ち成(盛)装して登阪、板垣氏に面接し、其民権拡張せざる可からず又、地方人民は連絡せざる可からずとの論旨の在る所を深く賛同なし、且つ同年八月には愛国社を東京に開設して、全国協同、一致和合して以て事を為す可との企図をも喜び、武部は帰り

来りて、同志越知彦四郎、箱田六輔、宮川太一郎等の一累と謀りて、青年者の士氣を養成し、其団結、社を創設せん事に一意奨励誘掖に打か、り、於是乎、矯志社、強忍社、堅志(志)社の三団体は自ら団結せられけり。又武部は意を決して東上、愛国社の会同に臨んと支度しつ、ありしが、忽ち板垣氏が参議に復任せるとの東伝(電力)に接す。武部は嘆じて曰く、嗟乎々々止めん矣。天下の事は人によりて成すべきに非ず。自ら謀るに如じとてその東上を止め、爾来家に在りて其宿意を貫徹せしめん事に昼夜汲々たりき。

茲に、廻りて三団社が結合せしその因縁を討たん。惟明治二年の秋にありて、就義隊の壯士連、箱田六輔、有田俊郎、渡辺五郎等は時事に感づる所あり同志の一累と共に博多妙楽寺に屯集し、文を修め武を講じ、志氣を琢磨するの名義なりしも、其挙動たるや、活潑任侠に流れ、兎狩に事よせて山野を駆馳し、其挙動たりや、動もすれば軽躁に奔りしは其場の勢、免るべからざる事態なり。又一方に於ては宮川太一郎、西川貞次郎等が首唱して、併心隊の同志青年を、同じく承天寺に屯集して、

(註) 翻刻に際し、句読点を付し、濁点を補い、適宜段落を設けた。本文中の(一)は底本のままである。誤字、脱字その他、石瀧による註記は(一)でくくった。同音の漢字を通用し

同じく時事に感じて当時勢に為す事あるべき余地を築かんとその団結を打創む。然して其動靜たるや、極めて実着穩念を主義を執りしなり。之を要するに、拘く是れ事に感觸して九州男児の心胆を練ひ、以て時勢に應らんとするの精神上より出しは同一なりしとは雖ども、其挙動の活潑と温静との異なる所よりして、双方の旨趣動もすれば衝突し、各自其精神の溢る所は勢奮抗格闘々氣を起し、既に宮川等が同類牧文蔵(博多瓦町の住人なり)は箱田等が同志より何か一条の口論より、散々に殴打せらるゝのみか、佩刀まで打折られ、命辛々通り帰りに彼等が暴状を白す。依て宮川等は直ちに其屯集所に抵りて、箱田等に面接、詰問せしも、彼方に於ても其故あり。抗論毫も屈せざりしかば、双方忽ち激聲して殆んど格闘せんとするの勢とは打変んじ、併心隊の方に於ては、数把の焼草を集め、焼打せんとすの準備を示せば、就義隊の壯士に於ては、敵寄来りて放火せんか、此方に於てはその相手となりて腕力もて決闘せんとして各臂を揮て待ちかけたり。



妙楽寺 (福岡市博多区御供所13)

其警報藩吏が聞く所となりて、各個の屯集場を取囲み、箱田六輔、有田俊郎、

渡辺五郎、宮川太一郎、西川貞次郎等を召捕り、集合の解散を厳命したり。是即ち明治二年十月某日の出来事にて、其繫囚者は其罪糾鞠して罪科を宣告し、箱田六輔は姫島へ、有田俊郎は小呂島へ、渡辺五郎は大島へ流竄、宮川太一郎、西川貞次郎へは佩刀を取上げ、徘徊を禁じ、爾後博多大賀の空屋敷より、荒戸谷町旧源光院跡の仮檻舎に召込まれしが、大凡八ヶ月計りして其罪を赦し家に帰る。夫れと同時に箱田、有田、渡辺の三名も同じく赦罪せられて流島より帰家す。それの一累は福岡表に於て再会



承天寺 (福岡市博多区博多駅前1)

し、酒を酌んで旧談を交へ、夫れより一層親密別頭之交を盟結するに至りける。

筆者紹介 昭和二十四年福岡市柳原に生まれる。佐賀大学理工学部物理学科中退。筑紫野市史編さん室勤務。福岡教育大学講師(非常勤)。福岡県地域史研究所研究員。福岡地方史研究会福岡部落史研究会、明治維新史学会、教育史学会に所属。近代政治史専攻。著書「玄洋社発掘」(西日本新聞社)。共著「筑前竹槍」(揆論)「福岡歴史探検」(いずれも海鳥社)、他に「須恵町誌」「志免町誌」「栢屋町誌」など。